

# Dual Grothendieck polynomials and finite sum Cauchy formula

成瀬 弘 (岡山大学)\*1

Alain Lascoux (Université de Marne-la-Vallée)\*2

## 記号の準備

$\mathbf{x}_n = (x_1, x_2, \dots, x_n)$ ,  $\mathbf{y}_n = (y_1, y_2, \dots, y_n)$  とおく。  $r^n = (r, \dots, r)$  は、  $r$  を  $n$  個ならべてできる分割とする。また、分割の順序は、Young 図形としての包含で定める。対称関数に関する記号法については、[5] に従うものとする。

グラスマン多様体の cohomology 環におけるシューベルト類を表す多項式として、Schur 関数  $S_\lambda(x)$  がよく知られている。また、 $K$ -theory でのシューベルトクラスを表す多項式としては、Lascoux-Schutzenberger が導入した Grothendieck 多項式  $G_\lambda(x)$  が知られている。(cf.[1]) Buch は、集合値 Young 半標準盤を用いて  $G_\lambda(x)$  を定義している。行列式を用いた公式なども知られている。(cf.[3])

一方、dual Grothendieck 多項式  $g_\lambda(x)$  は、本質的には Lenart[7] に導入されているが、具体的な多項式としては、Lam-Pylyavskyy [4] で、定義されている。ここでは、この dual Grothendieck 多項式が、Schubert 多項式の特異値として得られることに着目して、Jacobi-Trudi 型などの種々の行列式公式が自然に作れることを見る。また、この解釈から Cauchy 等式を導くことができることが示される。詳細は、[6] を参照のこと。

**命題 1** (Giambelli 型公式)  $\lambda = (a_1, a_2, \dots, a_r | b_1, b_2, \dots, b_r)$  を分割  $\lambda$  の Frobenius 表記とすると次が成り立つ。

$$g_\lambda(\mathbf{x}_n) = \det \left( g_{(a_i | b_j)}^{(i,j)}(\mathbf{x}_n) \right)_{r \times r}$$

ここで、

$$g_{(a|b)}^{(i,j)}(\mathbf{x}_n) := \sum_{p=0}^a \sum_{q=0}^b \binom{p+i-2}{p} \binom{q+j-2}{q} g_{(a-p|b-q)}(\mathbf{x}_n) + \sum_{t=2}^{\min(i,j)} \binom{a+i-t}{a} \binom{b+j-t}{b}.$$

**証明の方針** : Flagged Schur 関数を Excited Young 図形 (cf.[2]) で表示し、その行列式公式を適用する。

---

本研究は科研費 (課題番号:25400041) の助成を受けたものである。

2010 Mathematics Subject Classification: 41M15, 19L47

キーワード : Schubert calculus, factorial Schur function

\*1 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学 大学院教育学研究科

e-mail: rdcv1654@okayama-u.ac.jp

web: <http://ed-www.ed.okayama-u.ac.jp/~suugaku/naru/>

\*2 e-mail: Alain.Lascoux@univ-mlv.fr

web: <http://phalanstere.univ-mlv.fr/~al/>

**命題 2**  $\lambda$  を分割とする。このとき、次が成立する。

$$g_\lambda(\mathbf{x}_n + y) = \sum_{\mu \subseteq \lambda} y^{c(\lambda/\mu)} g_\mu(\mathbf{x}_n)$$

ここで、 $c(\lambda/\mu)$  は、skew Young 図形  $\lambda/\mu$  における空でない列の個数とする。

**証明の方針**： Young 半標準盤についての全単射を作ることで証明できる。

**系 3** 平面分割  $T$  に対して、 $x^T = \prod_i x_i^{T(i)}$  と定める。ただし、 $T(i)$  は  $i$  を成分に含む  $T$  の列の個数である。このとき、次が成立する。

$$g_\lambda(\mathbf{x}_n) = \sum_T x^T.$$

ここで、 $T$  は 1 から  $n$  までの自然数を成分にもつ平面分割の全体をうごく。

**定理 4** (有限 Cauchy 等式)  $n, r$  を、自然数とする。このとき、次が成立する。

$$\sum_{\lambda \leq r^n} G_\lambda(\mathbf{x}_n) g_\lambda(\mathbf{y}_n) = \sum_{\lambda \leq r^n} s_\lambda(\mathbf{x}_n) s_\lambda(\mathbf{y}_n).$$

注意： $y$  の変数の個数は任意でよい。

**証明の方針**： より一般的な等式を、帰納法により示すことができる。

$n$  を無限大にすることで、次の Cauchy 等式が得られる。

**系 5**

$$\sum_\lambda G_\lambda(\mathbf{x}_\infty) g_\lambda(\mathbf{y}_\infty) = \sum_\lambda s_\lambda(\mathbf{x}_\infty) s_\lambda(\mathbf{y}_\infty) = \prod_{i,j} (1 - x_i y_j)^{-1}.$$

## 参考文献

- [1] A.S.Buch, A Littlewood-Richardson rule for the  $K$ -theory of Grassmannians, Acta. Math. 189 (2002) 37–8.
- [2] T. Ikeda and H. Naruse, Excited Young diagrams and equivariant Schubert calculus,
- [3] T. Ikeda and H. Naruse,  $K$ -theory analogue of factorial Schur  $P$ -,  $Q$ - functions, Advances in Mathematics 243 (2013), 22–66.
- [4] T. Lam and P. Pylyavskyy, Combinatorial Hopf algebras and  $K$ -homology of Grassmannians, International Mathematics Research Notices 2007 rnm 125, (2007).
- [5] A. Lascoux, *Symmetric Functions and Combinatorial Operators on Polynomials*, CBMS/AMS Lecture Notes **99** (2003).
- [6] A. Lascoux and H. Naruse, Finite sum Cauchy identity for dual Grothendieck polynomials, preprint.
- [7] C. Lenart, Combinatorial aspects of the  $K$ -theory of grassmannians, Ann Combin, 4:82, (2000).